

令和2年度（第4回）北九州市公共事業評価に関する検討会議 議事録

日 時：令和2年11月25日（水）

11：00～11：50

場 所：北九州市役所本庁舎（5階）
特別会議室A

1 事業内容説明について

(1) 対象事業：【事前評価2】埋蔵文化財センター移転事業

(2) 事業担当課：市民文化スポーツ局 文化部 文化企画課

～事業課より資料6に基づき説明～

2 内部評価結果について

～事務局より資料8に基づき説明～

3 質疑応答について

○構成員

いくつか問題というか、争点があると思うのですが、今日見学させていただいて思ったのが、用途変更がかなり突飛という変なのですが、飛躍しているというふうに思いました。資料の中に書いてあったのですが、ユニバーサルデザインのところの記述について展示の仕方というのが移転することであったのですが、あまり関係が私は見出せなかったというのが一つです。

小学生がバスが停まれるようになるので来られるようになりますよという話がありましたが、それは本当に見込みがあるのでしょうか。例えば、小学生はある程度行事が決まっています、体験学習に行ったとしても、最近はどこに行っているのか分かりませんが、仮にここに行くとなったら、他のところに行かなくなったりするのではないかと、そういったことも少し思いました。

それと一番思うのが、「老朽化している」というのをずっと、埋蔵文化財センターの方は言われていますが、老朽化という観点で言われると（旧八幡市民会館の方が）もっと古いのではないかと気がするので、その点はどうだろうかと思いました。ですが、残さないといけないという要望があるということだと思いますので、その点がもうちょっとどうなのかと思ったところです。

●事業課

まず小学生ですが、今、実際に現地に団体で来られています。私どもが見込んでいますのは、学校行事がたくさんある中でも、いのちのたび博物館等に修学旅行や見学で団体で来られています。その方達をいのちのたび博物館と埋蔵文化財センターとのセットで来ていただく。埋蔵文化財センター単体というのももちろんございますが、コースとして組み込んでいただく。そちらを狙っていますので、学校も忙しい中ではありますが、そういう一つの流れとして来ていただくことで大幅な来館者が増えると考えております。

それと老朽化ですが、旧八幡市民会館はおっしゃるとおり、建物が築60年経過しております。ただやはり、先ほどお話にも出ていましたとおり、著名な建築家が設計した建物でございまして、まちづくりに活かしたいですとか、ぜひ保存をとという地元の声も踏まえまして今回の計画となったのですが、そのため今回、外壁や屋根の修繕等も始めまして、耐震改修も実施致しまして、出来る

だけ長く使える施設としての活用をしていきたいと考えております。

●事業課

展示・ユニバーサルデザイン等についてですが、確かに展示を見やすくするというような、段差のある展示を落とすということも考えていますが、バリアフリーな考え方も含めまして、今スロープは造ってはありますが、実際には昇れるようなスロープではない。昇れないことはないのですが、負担が大きい。一般の来館者の方が使えるエレベーターがない。そして多目的トイレ、授乳であったり、オムツ交換に使えるスペースが全くないという状況なので、今後長く使う公共施設として刷新するためには、そのような対策が必要かと考えております。

○座 長

よろしいでしょうか。それではほかに、いかがでしょうか。

○構成員

市の内部検討の結果を踏まえて、埋蔵文化財センターとして、市民会館に移転する場合とのケースの比較をということで、資料6]30ページのスライドにあったとおり、事業費の比較が出されているかと思えます。ただ、これだけを見ると市民会館としての改修費の試算と埋蔵文化財センターとしての改修の費用がどちらがどちらなのか、今ひとつ分かりづらいのではないかと思います。本来、比較すべきは、一つは八幡市民会館を市民会館として残して埋蔵文化財センターの大規模改修をする。その場合の市の財政支出は15か20億プラス4億6千4百万円なので、だいたい20から25億円かかります。

一方で今回のプロジェクト、事業を進めた場合に必要となるのは、埋蔵文化財センターの改修の19億円。それに対して、改修費は関係ないので売却益が二つ立って、合計で9億5千から14億5千万円の事業費になると。

そう考えると、加えて市民会館として残した場合には、市民会館としての運営費と埋蔵文化財センターとしての運営費。本件の事業をやった場合には、埋蔵文化財センターとしての事業負担がかかるという、その二つのケースごとで比較しないと、これではどちらの方が財政負担が大きいかは分かりにくいかなと感じた次第です。

そのあたり、今の試算でよろしかったでしょうか。

●事業課

そうですね。構成員のおっしゃるとおりでございまして、市民会館としての改修費の場合は、一方で埋蔵文化財センターの大規模改修が乗っかってくるということになりますので、おっしゃったとおりの金額になるかと思えます。

○構成員

そうするとやはり20～25億円なのか10～15億円なのかという比較の上で議論すべきなのかなと感じました。

○座 長

今の点はいかがですか。それを踏まえる形で、やはり移転した方がコストの面ではよろしいかどうか。そのあたり、いかがですか。

●事業課

一点は、市民会館としての利用は市としては廃止するという方針を出しましたので、どちらも運

営するという選択肢を市の方では一旦は廃止ということで結論を出しております。ただ、今回の方は金額を仮に比較するとすれば、こういった数字が出てくる、という程度のものということで出しています。

○座 長

そうすると市民会館としては利用しないということが決定されているので、簡単に言えば試算のしようがないということですか。

●事業課

試算のしようが正直言って、ございません。もう一つ、市民会館の改修の試算はあくまでハードのみの試算しか、実はやっていないんですね、廃止するという前提ですので。もしソフトとして改修するという事になれば、舞台機構であるとか色々な設備系がこれに入ってきますので、廃止するという前提でしたので、そこまで踏み込んだ、きちんとした金額は市としては検討していないということがあります。ただ、検討の目安として、この程度のことが言えます、ということで参考として出している金額になっております。

○座 長

いわゆるハコの部分だけ手をつけると、これだけかかりますということですね。

●事業課

はい。

○構成員

市民会館としての、と書いてあるからよく分からないのですが、いわゆる使えるようにするための改修費と読むべきなのでしょう。それともやっぱり市民会館としてということであれば、これは数字はむしろ仮想のものなので比較対象にならないのですが。

○座 長

これは建物の改修費の試算ですね。

●事業課

建物として、ですね。

○座 長

市民会館としてであれば、これプラスで内装の部分とかそういったものが上乗せされる計算になるということですね。

●事業課

そうですね。これが全ての金額ではないということです。

○構成員

市民会館としてという前提をとれば、ハコモノとしてもこの金額なのか、この金額ではないのかというのが聞きたい。

●事業課

建物のフレームとしてという意味ですね。

○構成員

何かしら使えるものとして。市民会館ではないとして。

●事業課

全館のかなり大規模な空調施設が市民会館に入っておりますし、そのような機械設備・電気設備等を現状のまま、市民会館としての当時の装備を求められるレベルを維持するとして、このハードの改修費が必要だという試算になっております。

○構成員

市民会館として、と言われると分からなくなるということです。

●事業課

例えば、今回埋蔵文化財センターの移転でいうとホールのところの空調とかを落としているので、機械設備とかはもっと金額が落ちている。上の段の市民会館としての改修費というのは、あれだけの体積を空調する機械設備であったり、あれだけの照明等を維持する電気設備等の改修費を含んでいる試算でございます。

○座 長

側（がわ）の部分だけですね。

●事業課

側（がわ）プラス中を支える空調と電気等ですね。

○座 長

あと耐震化。

●事業課

耐震化も含まれますと。

●事業課

ちょっと修正します。15～20億円というのは一部、舞台の照明・音響等も入っていますので、それを除いたらフレームとしては10億円です。

○座 長

フレームが10億円ですね。

●事業課

フレームとしてはですね。

●事業課

外壁や屋根の防水。

●事業課

空調。

●事業課

あとは耐震。

○座長

それでは、やはり文言どおり、市民会館としてやれば15～20億円かかるということですね。

○構成員

だけど市民会館としては使わないので、比較する数字としてはちょっと難しい。

○座長

10億円として、埋蔵文化財センターが19億円でしたか。

●文化部長

はい、19億円。

○座長

合わせて30億円ぐらいはかかると。

●事業課

別々に現施設を改修すれば4億6千万円、約5億円です。

○座長

5億円。大規模改修をすればですね。

●事業課

そうですね。

○座長

ほかに、よろしいでしょうか。

○構成員

そうですね。今の話が出てくると、なお分からなくなってしまいますが。でも市民会館を使わないということで前提として考えるかどうかというのは、今回の検討のポイントになってしまうので、なかなかなんとも言い難いのかなと。

○構成員

今の話を整理すると、市民会館は建物として残す場合は最低でも10億円かかりますよ、という理解で良いのでしょうか。

●事業課

フレームだけで。

○構成員

フレームだけで。そこに例えば違う機能がつけば、その機能にそった何かがついてくるということで、建物だけを残すということでも10億円はかかるということですよ。

●事業課

市として、フレームだけを残すという選択肢は考えられない。それを残して、それをどう活用できるのかが、やはり残す前提に、考える際にはなる。そういった場合も、何が適切なのかという選択の中で、今回、埋文センターの移転が最適であろうとなった。

○構成員

市としてもそうですし、やはり公共施設マネジメントの計画の中にもありますが、安全であること、建物を市が保有するという点については安全であることが絶対必須だと思うんですよ。なので、重要なものであったとしても、構造が今の状況でそのまま残しておくことができないということで大規模な改修が必要になるということを考えると、私は個人的には「著名な」というところは理解していますけれども、それを後世に伝えたいというような市民の気持ちも一部の人は持たれているのかもしれませんが、それとそこに大規模なお金をかけて、将来世代の人達が本当にそこに対して、それだけの価値を見出すのかと考えると、やはり負担、どういう事業でも起債をするわけですから、負担と一緒に乗っかってくると思うと、本当にそれで良いのかなと。本当に、将来世代の人はそれを望むのかというところは、一点、疑問はあります。

また市民会館につきましては、色々な機能を考えると他で代替できるというような判断が以前にあったかと思いますが、機能と施設は別で考えるべきだと私自身、思っておりますので、そう考えると、この八幡市民会館自体はやはり、もう施設の方も機能の方も必要ないと言うと語弊があるかもしれませんが、そう考えても良いのではないかと思うところです。

ただし、それでも、これをどうしてもという市民の意向もあるということで、市の方が色々判断して、ただ建物だけ残すという判断はないということから今回、埋蔵文化財センターとくっつけて、というところは一つ、理解はできる。

施設と機能は別というところで、市民会館としても造られた、もともとホールとして造られたものですので、そこに埋蔵文化財センターをもっていくのはすごく難しい。合わないところはあるでしょうが、その中でも合うように、少しあるいは大きくかもしれませんが変えていくというところに対しては、財政が厳しい中で最大限にやれる選択肢の一つなのかなというところも理解したところです。

そういう意味で言うと、この埋蔵文化財センターがあることで、どんな効用があつて、どんな効果が市民にあるのかが重要で、ここで言うとプラス10億円ぐらいでしょうか、埋蔵文化財センターとして改修した場合にフレーム、プラス10億円かかるわけですので、その10億円もしくは19億円に対して、埋蔵文化財センターとしての機能と建物を残すということでの市民の満足度が、この10億円と見合うかどうかなのかなというところ、今のままだと難しいのかなというところはあります。

ただ、埋蔵文化財は重要なものでもあるので、それを色々ところで市民が知るきっかけというところとしても重要だと思いますので、もう少し教育とか何かにつながるような、あとはやはり市民で良かったとかですかね、そういうところに何かつながるような見せ方の工夫がもっと出来るのではないかと思いますので、そこらへんはもっと工夫されるべきだと思いますし、市の内部評価にもあったように入場料に関して、例えば市外の方などに分けることも出来ると思います。また、少し参加費用を払ってでもプラスαでできるようなこととか、もっと工夫の仕方はできるのかなと思ったところです。

なので、19億円かけて建物を残すということによる効果と埋蔵文化財センターとしての効果が見合う形で行っていただきたいと思いました。

○構成員

市民の方々の意見もございませうけれども、この事業がこのまま進むということを考えてときに、埋蔵文化財センターを先ほど見て参りましたが、本当に老朽化が進んでいて、これをそのまま放っておくのも良しとしない。毎年毎年、発掘して保存しなければならないものが増えていくということも考えますと、市民会館の方に移るという考え方も一つあるかなと。

しかし市民の方々の思いもあるので、それは調整していただければ有難いと思います。市民会館の方に移るとなると、先ほどから問題になっていませうけれども、展示の仕方もあるでしょうし、あの広いスペースで有効に使わないと移った意味がないと思います。するのであればもっとお金をかけて、高い、上のスペースをどうにか利用できるように、可能ということになればそれで良いのですけれども、それも出来ない、中途半端な移転というのは、どっちつかずになってしまつてよろしくないと思います。

近代建築を残した上でということをおっしゃっていましたが、実際本当に藤吾さんの建築の建物の中に埋蔵文化財センターが入るといのが、ヨーロッパなど海外の方でもそういう風な利用をしている所がたくさんあるので、それはそれで理解できると思います。

今日は市民会館で作業スペースになるといところを見ることのできなかつたのですけれども、実際、埋蔵文化財センターを見せていただいて、その機能も本当に大切な機能としてやっているのだから、そこも見学させていただければありがたかつた。外から見るだけではなく、中で作業する人達がどれだけ作業しやすいのか、といところも埋蔵文化財センターの意味になるところなので、そういうところもを見せていただければ良かつたなとい気持ちであります。なかなかこの問題は難しいかなと思つていませう。

○座長

今の点は何かコメントございませうか。

●事業課

確におっしゃるとおり、あれだけのスペースをいかに有効活用していくのかは、我々にとつても大切な問題で、コンテナだけではなくて、現地でもご説明しましたが、いのちのたび博物館など色々なところで保管しなければならない物はどんどん増えてい中で、おっしゃつたように、いかにスペースを有効活用していくかといのは我々の課題であり、そういつたところも限られた中といませうか、今後の設計のなかでいかに色々なところを活用していくかといのは我々の課題でして、今後の設計の中でも、いかに色々なところを活用していくかといのは、今でも我々の中で考えていますし、色々設計する中で、可能な限り、そういつたスペースが増えるように我々も常に検討しているところございませう。

○構成員

私も建築関係の仕事をしている関係上、村野藤吾さんの設計されたものを残すか残さないかとい話、私達の仲間内でもずっと話してきて、使い道がないのなら壊さないとい仕方ないとい結論にだいたい達していましたが、こつうい使い道があつたのかと、今回お話を聞いて個人的には良かつたなと思つていませう。

村野藤吾さんの建物をどこまで残すのかが一番大事だと思ふんですね。中はガラツと変わるであろうとい気持ちがありますが、その変わったものの中に村野建築の雰囲気をつどこまで有効に出すことが出来るのかが課題だと思ふませう。

私もつらつらと考えたところ、今回の用途変更による大空間の利用方法等は、あの天井の高さをどう利用の仕方にするのかだと思います。埋蔵文化財のコンテナもどんどん増えていますよね。最近の自動車車庫ではないが、ボタンを押せば上がっていく、ボタンを押せば動いていく。最近の図書館のような、ああいうものをあのハコに合わせて作れば、すごい立体的な収納庫になるのではないか。具体的なことを言って申し訳ありません。今回、埋蔵文化財センターが本当に上手く機能していくように努力していただければ有難いなと思います。村野さんのあの大屋根の天井の中も建築の文化遺産として見てみたいと思いました。

○座 長

時間があればちょっと見たかったですね。

○構成員

今回、使えるようにするために19億円か20億円ぐらい、市民会館の方はかかるということなんですが、今回の改修で何年もたせるのかということところが気になっていて、どうも20年くらいを見込んでいますよね。安心して使える、賞味期限とか消費期限ではなくて、20年ぐらいたとすると、また20年後に新しいコストが発生することになります。こういう公共施設はやはり40年ぐらひは一つのスパンとして見ておかないといけない。そうすると費用の試算に20年後からのもう1ターンの20年ぐらひがいくらかかるのかということも込みで金額は比べてもらいたいというのが一点です。

それから、埋蔵文化財センターの方も若干、収納庫は広くなるが11年後には満杯になるということですから、11年より先はいずれ収納庫の話をしないといけない。そのコストもトータル40年というスパンの中では計算に入れておかないといけないのではないかと思います。

私自身は、今言われたように、市民会館を残すということができればそれが良いことだと思いますが、その時にはきっちりと、これぐらひのコストがかかるけれども大事なものであるから、そこはそのコストを飲むという判断をするんだという説明が必要だと思います。

逆に言うと今の19億円、20億円を次の20年を目指すとして10億円ぐらひかかるというつもりで見込めば良いのか、19×2ぐらひのつもりで良いのか、そこが実はすごく大事なのではないかと考えています。

○座 長

長期的に費用の比較をしながら、収蔵スペースの逼迫の問題をどういうふうに入れ込んでいくのかということだと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

●事業課

収蔵庫の問題につきましては、これは全国的に皆さん悩みを抱えていらっしゃると思います。やはり増えることに対して、どう対応していくかということはずっと過去からも抱えてきた課題で、今後ともずっと抱えていくものであると思っています。それに関しては国の見解とか今後変わるかもしれませんが、増え続けることは間違いございませんので、今回こうして移転できたとしても、いずれはまたその問題が来ますので、やはりそこは市内で、これまでも空き小学校や空いた施設を利用して収蔵庫にしていきましたので、そういったところを確保していくであるとか、この市民会館の中を有効活用して収蔵量を増やしていくなど、そこは我々の課題であると思っていますし、今後早急に検討しなければならないと考えております。

○座 長

一応、ご意見を伺いましたけれども。

○構成員

収蔵庫は良いが、市民会館については。

●事業課

市民会館については最初も指摘がございましたけれども、昭和33年の建物ということで、この建物自体が非常に古い。正直申し上げて、この時代のコンクリートの建物がこの先どのくらい手を入れればもつのかというのはまだ分からない部分が非常に多いと聞いております。

今、私達はとりあえず20年なんとかもたせるためにこれぐらいかかるだろうと思っているんですが、それが本当に20年なのかもう少し先なのか、もっと手前で手を入れないとダメなのか、正直その金額を明らかに出すということがなかなか難しい状況がございます。この建物だけでなく、昭和の近代建築と言われる建物全体がこういう課題を抱えているのではないかと思います。ですので、私達としては今の時点でやはり市民の声も受けて、とりあえず20年はなんとかもたせるという形で、今の費用を引いているところです。

○構成員

可能性としては、例えばコストがかかり過ぎるから20年後になって、やはり保存は難しいねとなると埋蔵文化財センターももう一回移転しないといけないという可能性も込み込みで判断されているのか。

●事業課

埋蔵文化財センターにつきましても、もっと規模的に色々な収蔵ということもありますけれども、私どもとしては先のことがまだ、本当に将来的な線を引けておりませんので、そこにかかる費用としては出来るだけ縮減できる、合理的など言いますか、ところに抑えたいという思いもございます。

○座長

何年もつかというのは正確には分からないですよ。

●事業課

収蔵庫自体が、収蔵物自体の取扱がこれから変わってくる可能性もありますし、量が減ってくる可能性もありますので、そこにあまりコストをかけずに保管するという方策をできれば考えたい。

////////////////////////////////////

○座長

必要な点については、意見、コメント等は出たかと考えてございます。

ただいま、各構成員の皆様から様々なご意見をいただきまして、ここで一つ、構成員の皆様を確認しておきたいのですが、基本的に当該事業をこの計画で進めていくことに対して、ご異議・ご意見などありませんでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。それでは当該事業については、この計画どおり進めていくことを前提とした上で検討会議としての意見を整理したいと思います。

皆様から頂いた意見を集約しますと、第一点が老朽化・収蔵スペースの逼迫・施設狭小・非ユニバーサルデザイン、こういった課題に対するひとつの回答としては、こういう考え方はあるだろうということ。

二点目としては、周辺の文化施設との相乗効果を考えていただいて、見学者の確保と言いますか、小学生の体験学習など、そういったところをきちんと取り込めるようなソフトとハードの整備をお願いしたい。

三点目は、やはり市民に対する様々な効果ですね。教育効果やシビックプライドなど、そういった効果を意識して、見せ方や料金の問題を工夫していただきたい。

四点目は、今日視察をしまして、やはり私も構成員と同じような感想を思ったのですが、かなり大きな空間・スペースがございまして、中途半端な投資をするのではなく、きちんとそういったスペースを有効に活用できるような設計を心掛けていただきたい。

それから改修をした後にどれくらいもつのがよく分からないということでしたが、その中でもやはり長期的な見通しを都度都度できちんと立てていただいて、出来るだけ長期的に費用を節約できるような方策を常に見直していただきたい。そしてその中には収蔵スペースの逼迫が近い将来起こる可能性があるということでしたので、先ほど言った空間の有効活用という点からも、できれば収納スペースも多く確保していただきたい。

最後に、近代建築を残すということは、シビックプライドの醸成で非常に重要な視点だと思えますので、きちんと残していただくということと、できればどこかスペースの一角に村野藤吾さんの顕彰スペースみたいなところを作っていただいて、そこに建物の由来であるとか意義であるとか、それから彼に関わる資料を収集して保存しておくということも考えていただければと思います。このような意見を公共事業評価に関する検討会議の意見としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございました。なお、具体的な記載内容につきましては、座長である私がお預かりしまして事務局と調整させていただきますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

本日の会議資料と議事録については、後日、市のホームページに掲載することとします。議事録については私が事務局と調整させていただきたいと思います。

それでは今後の予定につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

ただいま、構成員の皆様からご了解をいただきましたとおり、埋蔵文化財センターの移転事業につきましては、現計画どおり事業を進めさせていただきます。

今後でございますが、本日、皆様からいただいた意見を踏まえまして、市で対応方針案を作成し、市民意見の募集、パブリックコメントの手続きに入らせていただきたいと思います。以上でございます。

○座 長

ありがとうございました。それではこれで本日の検討会議を終了したいと思います。皆様、今日は大変、お疲れ様でした。